

(議長)

休憩を閉じて、再開致します。  
次に、出崎議員の発言を許可致します。

「出崎議員」

はい。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

えー私からは、2問、質問致します。

えー1問目あの一、計画中の道の駅の津波対策についてお伺いします。

えー北の江の島構想道の駅は、海域に近い位置に計画されており、子どもの遊び場を伴うだけに、津波発生時の安全性について、えー議会全員協議会においても、これまで色々議論されて来ました。このエリアは津波災害警戒区域に指定されており、津波が発生した時には直撃を受ける場所であります。

平坦地が限られている本町においては、土地利用上このエリアを活用せざるを得ない事案も私には理解出来ます。

7月の全員協議会において、基本設計業務の、えー検討状況が示され、計画施設は2階建てとされています。

そこで、そこで以下の2点について見解を伺います。

えー1つ目。津波基準水位、GL+5mを念頭に、1階屋上に避難できる場所を設置する計画となっていますが、より高い2階屋上への避難可能な構造とするべきではないか。

2つ目。第1波到達時間7分と、避難に要する時間に余裕はありませんが、津波発生時の避難は、建物に留まることなく、至近の高所に避難することを優先に避難訓練を積み重ねるべきと考えますがどうか。以上、伺います。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

出崎議員の1問目、道の駅の津波対策についてのご質問にお答えを致します。

北の江の島拠点施設の耐震性や津波対策を考慮した構造など、基本設計の検討状況につきましては、7月4日開催の議会全員協議会におきまして、ご説明させて頂いたところでございます。

ご案内の通り、建設予定地は津波防災地域作りに関する法律に基づく津波災害警戒区域に指定されており、津波浸水想定を踏まえ、最大クラスの津波が発生した場合に、津波による人的災害を防止するために、警戒避難体制を特に整備すべき区域となっております。

建物が立地する予定の箇所につきましては、津波浸水想定に定める水浸に係る水位に、建築物等への衝突による津波の上昇を考慮して必要と認められる値を加えて定める水位、いわゆる基準水位が3メートル以上5メートル未満となっております事から、この基準水位を念頭に建物の高さ、構造使用検討し、1階の屋上に避難できる設計としたいと考えている旨の説明をさせて頂きました。

議員からは、より高い2階屋上へ避難可能な構造とするべきではないかというご質問でありますが、津波発生時における避難場所の高さの基準となる水位であります、基準水位を踏まえて、建物の高さを検討した上で1階の屋上に避難できる設計としているものでございまして、基本的には避難場所としては、1階屋上想定しておりますが、2階屋上への避難の可能性についても検討して参りたいと考えておりますので、ご理解頂ければと思います。

2点目、津波発生時の避難を想定した避難訓練のご質問でございます。

拠点施設整備基本計画にも記載しておりますが、拠点施設整備に伴う津波対策と致しましては、施設整備によるハード面と的確、迅速な避難確保等によるソフト面の対策と両面からの対策が重要であると考えております。

江差港における想定される最大クラスの津波での浸水想定では、影響開始時間が地震発生から3分、第一波到達時間が地震発生から7分となっており、人命を守ることを最優先に、1階屋上への垂直避難を軸として考える必要があります。

一方で地震や津波の規模、状況によっては避難指示に従い、指定避難場所への誘導を行うなど対策が必要になる事も想定されます。

地震或いは津波の発生時に迅速に適切に対応出来るよう、施設独自に避難等の対応マニュアルを作成すると共に、様々なケースを想定した避難訓練についても、実施して参りたいと考えております。

今後、所管のまちづくり推進課だけではなく、防災担当の総務課とも連携を図りながら、必要な対策について整理して参りたいと考えておりますので、ご理解頂ければと思います。

「出崎議員」

議長。

(議長)

出崎議員。

### 「出崎議員」

えー再質問させていただきます。

えーと、私はあの一、津波発生時はですね、まずあの一水平避難、これを基本に考えると、あの、思っています。えー東日本大震災後の気仙沼市で、復興事業にあたりましたけども、ま、そこで亡くなった人についてですね、逃げる時間はあった。被災した人は、海に見に行った人か、避難を拒んだ人、との声も直接聞いています。

これはあの、到達時間7分、これは決して長い時間ではないんですが、避難訓練を通じて島に逃げるのか、それから町の方へ逃げるのか、これはあの、避難訓練時にですね、是非探って欲しいというふうに思っています。

その上で、建物内での垂直避難を余儀なくされる場合が出てくると思います。これあの、前にも言いましたけれども、気仙沼市でやはり、4階建ての高校で4階まで浸水した被災跡も実際見えています。ま、想定の高さに囚われないでですね、この施設が2階建てで計画されているなら、是非ですね、あの、より高い所に避難場所を、確保に努めて欲しいというふうに思っています。

それについて再度、あの一見解を伺います。

### 「まちづくり推進課長」

まちづくり推進課長。

### (議長)

まちづくり推進課長。

### 「まちづくり推進課長」

はい。出崎議員からのご質問に、ご答弁申し上げます。

えーと、ちょっと順番が前後致しますが、あ一、えーと、1階の屋上を今現在の基本設計の中では、あ一1階の屋上に避難できる設計としているものでございますが、先程町長からのご答弁でも申し上げました通り、今後事業者設定を進めていく上で、えー要求水準との作成を行う段階におきまして、えー2階への避難についても検討して参りたいと考えておりますので、えーその点をご理解を頂ければと思います。

それと2点目、避難訓練の関係でございます。まあ水平方向の避難ということでございますが、施設を管理する立場と致しますと、お一津波発生時の対応と致しますと、お一施設利用者の人命を守ることが、最優先に考える必要があると考えております。

ま、各、それぞれバラバラ、あの利用者は観光客で、えー来る方でございます。も多々ございます。常時そこを利用されている方ばかりではございませんので、えっと避難訓練と言いましても、なかなか対応が難しい部分もございます。

えー施設を管理する立場と致しますと、先ず、利用者の人命を守ることを最優先に考えまして、えー予めどこに避難するか、どこに避難させるかということを決めておく。ルー

ルを決めておく事は重要であると考えております。

えー、その上で、えー江差港において想定される最大クラスの津波では、えー一時的には、やはり2階屋上への、あっ、1階の屋上への垂直避難が軸になると考えております。

が、津波や地震に関しましては、色んなケースが想定されますので、えー、状況に応じて、えー迅速な行動が出来るように、施設独自にマニュアルを作成し、えー的確な避難誘導を行う事が出来るように、する必要があると考えておりますので、えー避難訓練につきましても、そういう観点で実施して参りたいと考えておりますので、ご理解をお願い致します。

「出崎議員」

はい。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

ありがとうございました。避難訓練も含めて、よくあの検討をお願いしたいと思えます。

次に2問目に移ります。

えー設置を計画している、仮称江差港みなとまちづくり協議会について、お伺いします。

えー先の議会全員協議会で、釣りモデル事業に採択されたとの報告があり、その際、設置予定の仮称江差港みなとまちづくり協議会では、釣りのみでは無く、もっと広く港の活用について協議するとの説明がありました。

えー能登半島地震の教訓として、想定されている日本海溝・千島海溝地震の津波で、函館を含む太平洋側が被災した時、迅速な復興のために日本海側江差港からの支援が不可欠だと考えています。

その協議会で、渡島半島被災時の江差港の支援機能整備について、取り上げるつもりがあるかどうか、お伺いします。

「町長」

議長。

(議長)

町長。

「町長」

出崎議員の2問目、設置を計画している仮称江差港まちづくりみなと、あー失礼しまし

た、みなとまちづくり協議会についてのご質問にお答えを致します。

出崎議員からは、あー江差港が本年8月7日に釣り文化振興モデル港の指定を受け、今後協議会を設置し、具体的な取り組みについて協議を進めていく中で、渡島半島災害時における江差港の災害支援機能整備についての議題も取り上げる予定があるかのご質問でございました。

この度、江差港が指定を受けた釣り文化、釣り文化振興モデル港とは、国土交通省港湾局が環境資源としての港湾における釣り施設や、既存の防波堤等の利活用を進めるため、地域の関係者による地方創生を目的とした、釣り文化振興の取り組みが進められる港湾を募集し、指定しているものでございます。

従いまして、今後、設置する協議会では、観光資源としての港湾施設の利活用や釣り場としての安全対策とマナー向上へのルール作りを、主な議題として協議を進めていくこととなります。

一方、出崎議員のご質問にありました、大規模災害発生時においては、災害支援物資等の受け入れ、搬送のための拠点として、港湾が有効な施設になり得ることは十分承知しております。

従いまして、防災機能を含めた総合的な港、港湾の利活用に関する協議につきましては、江差町港湾審議会など、この度設置する協議会とは別の会議の場で協議を進めていくこととなりますので、ご理解願いたいと思います。

「出崎議員」

はい。

(議長)

出崎議員。

「出崎議員」

えー再質問させていただきます。

えーと、まあ、私も、あの一今回の協議会に、えー防災支援機能を含めるかどうかについては、それでいいのかわかっていうのはちょっと思いつつもですね、そういう支援機能の、えー港の整備が必要だということで、ま、これまでのあの一渡島半島全体を考えた時には、江差港の防災支援機能が、必要とずっと主張してきたもんですから、あの今回、質問させていただきました。

あの、私自身ですね、函館で行われた防災士会の道南ブロックイベントにも出かけて、函館で津波被災、津波被災をした時に、避難するだけでなく、迅速な復興のために江差港整備が不可欠であることを解いて来てます。

またあの、今回檜山振興局長が新しく着任されましたけども、その着任の会見、新聞記事を読んでからですね、是非、今度の檜山行政の施策の一つにですね、この、えー江差港

の支援機能整備を加えてくださいという手紙を書いてもあります。

またあの一、個人の、個別の道南在住の政治家についてもですね、機会を捉えて、渡島全体の強靱化のためには、えー速やかな復興支援のために、江差港の整備がやっぱり必要だよという話はしてきております。

まああの今回、釣りモデル事業とか、えー洋上風力事業とか、港を取り巻く環境ですね、大きく変わりつつあります。

是非この、えー中にですね、この支援機能を含めて、えー特にあの一、地元から声を上げないと、中々函館もそうだったんですが、地元から声を上げないとですね、周りから色々支援を、まあ、こちらからお願いしてもですね、中々声が届きにくいということがありますので、この機能をですね、あの是非視野に、審議会なり何なりで、取り上げて欲しいというふうに思っています。

ま、この辺の見解についてですね、お伺い出来ればと思います。

**「産業振興課長」**

産業振興課長。

**(議長)**

産業振興課長。

**「産業振興課長」**

えー出崎議員からの再質問にお答えさせていただきます。

えー出崎議員から、えー渡島半島で大規模な津波被害が発生した場合を想定し、えー、江差港の防災支援機能強化に向けた協議を進めるべきとのご質問だということで、認識しております。

えー災害が発生した際ですね、えーまずは各々の自治体において、あの住民の安否や被害状況の把握を進めます。その結果を都道府県が集約し、広域的に甚大な被害を受けるような大規模災害であることが確認された場合、速やかに国や道が介入し、えー一国、道、関係市町村が連携の元、災害への対応を進めていくこととなります。

えー仮に、渡島半島などの太平洋側で大規模な災害が発生し、函館港に甚大な被害が発生した場合の対応と致しましては、えー函館港は、あの国内外の海上輸送網の重要港湾に指定されていることもありまして、基本的には北海道開発局と函館港、室蘭港、苫小牧港、十勝港、釧路港、根室港の6港湾管理者による、えー総合応援協定に基づきまして、えー北海道開発局、えー港湾空港部に、えー連携本部が設置されまして、そこからの指示を受けながら、広域的な対応を進めていくこととなります。

こうした災害対応手順はですね、えー出崎議員も仰った、東日本大震災という、えー未曾有の大震災の、えー経験を踏まえまして、えー国において平成25年に国土強靱化基本法を制定し、えー国や地方自治、公共団体に、えーが、えー強靱化計画を策定の上、対応を図ることとされ、そうした計画に基づき、えー国や重要港湾による連携協定が結ばれている

という背景がございます。

えー江差町におきましても、えー江差町強靱化計画を策定をしております、その計画の中にも港湾の機能強化について、記載もされているところでございます。

えー従いまして、今後開催する、江差町港湾審議会には、江差港湾事務所の署長など、国の関係機関の職員も入っておりますので、えー渡島半島など周辺地域で大規模災害が発生した際に、江差港などの地方港湾が果たすべき役割がどう在るべきかということはどうですかね、協議する機会を設定して、えー参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

**(議長)**

よろしいですか。

**(議長)**

出崎議員。

**「出崎議員」**

ちょっと再々質問なんですけども、あの一国の政策もですね、渡島半島のあの一、太平洋湾岸が被災している時には、えー向こうの方しか予算措置取って無いんですよ。

で、能登半島の地震を考えると、やっぱり半島の反対側から、これ支援しないとですね、あの一早急な支援体制が作れないってことがありますので、そこも踏まえて是非ね、江差の方でも、えーより深く検討して頂きたいと思います。

それどうでしょうかね。

**「町長」**

議長。

**(議長)**

町長。

**「町長」**

えー出崎議員から災害時の港の活用というところで、ご質問頂いております。

私もその重要性というのは、大変な、大きいものがあるというふうに思っています。

えー我々の町の港を活用してですね、渡島半島で災害が起きた時に、我々が出来る、災害時の対応というのをしっかり考えていく必要がある、港の活用を考えていく必要があるかなというふうに思っております。

その上で、やはり港だけではなくてですね、やはり大事なものは道路が寸断されたら港に、えー物資が運ばれてもですね、それを渡島側、あー函館側に運べないというような状況も出て来るかなというふうに思っております、やはりですね、そのインフラというの

は、えー一体的に道路、港湾、空港、或いはそういった拠点となり得る公共交通の拠点と  
いうのを、しっかり整備して行く必要があるんじゃないかなというふうに思っています。

そういった声をしっかりですね、えー一国、或いは北海道に対しても主張しながら、江差  
港として出来る災害時、防災に対する役割をしっかり検討しながら、有効活用を考えてい  
きたいと思っておりますので、是非、ご理解頂きたいと思えます。

**(議長)**

以上で、出崎議員の一般質問を終わります。